

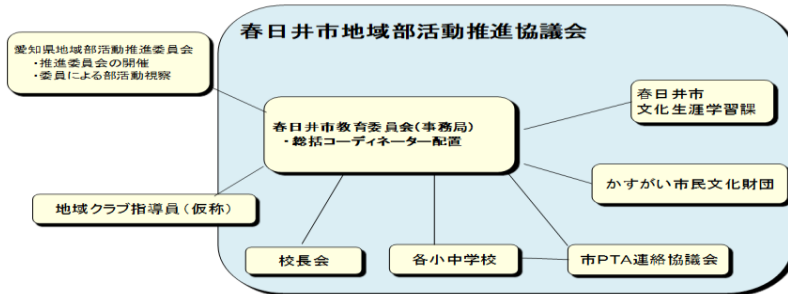
I. 基本情報

運営主体：春日井市教育委員会

事業目標：令和5年2学期から休日の活動を行政主体とし、20の文化系部活動に地域クラブ指導員を任用する。

総括コーディネーター2名（運動部、文化部）を配置し、地域移行の課題解決を行う。

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

春日井市では、部活動の地域移行を目指し令和3年度から部活動検討会議を開催し、有識者や校長会、保護者など様々な方と論議を重ねてきた。意見を参考に予算要求を行い、令和5年度から休日に活動している部活動全てに対応する形で「地域クラブ活動」を設立した。拠点校も含め指導員は、兼職兼業の教職員で38人、部活動指導員や大学生など36人、合わせて74人の指導員を配置している。可能な限り複数指導体制を構築するために総括コーディネーターが各校との連絡調整を行いながら配置を行った。

本市では、吹奏楽について中高ジョイントコンサートなど活動場所が多く、地域クラブ活動として参加し、教職員の顧問以外が地域クラブ指導員として引率を行っている。

合唱活動では、学校単位としてのみ参加を認めているコンクールも多いが学校部活動との差異を少なくしたことで円滑に参加することができた。ただし、参加人数の少ない活動もあるため、合同による活動を検討中である。

演劇では、より専門的な指導が受けられることを目指し、合同練習の場を設けた。また演劇の指導者には、活動している学校へ他校より兼職兼業の教職員が「地域クラブ活動指導員」として指導にあたっている。

III. 成果

地域移行に向けて、現在部活動に所属している生徒が部活動との変化をできる限り少なく感じるように配慮をした。休日に活動していた部活動と同様の地域クラブ活動を設置することができた（吹奏楽15、合唱3、演劇4、ギター1）。指導員の配置をコーディネーターが行い、複数配置を実現することができた。部活動からの変化が少なく行えたことで、大きな混乱なく地域移行をスタートすることができた。

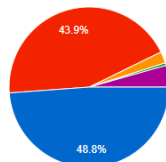
演劇において部活動では発表会がなければ他校の生徒の様子を知ることができなかったが、合同練習会を設けることで、生徒は大変刺激を受け、練習の視点を自主的に考えることができた。専門的な指導を受けることで、大幅に技術の改善がみられた。

3月に行ったアンケート結果（運動系と合同集計）では、集計途中であるが90%以上の生徒が「楽しく参加できた」と回答している。「地域クラブ活動」に戸惑いなく参加できた結果といえる。



【合同練習会（演劇）】

楽しく参加できましたか
387件の回答



【3月に行ったアンケート結果（集計途中）】

活動種別

吹奏楽・合唱・演劇

運営形態

地域移行・市町村運営型

活動場所

中学校

鍵、校舎管理の工夫・現状

地域クラブ用に活動場所の鍵（教室や渡り廊下）を準備し、一室で管理する。

参加生徒の基本情報

人数：西部中学校 49名
3拠点校 藤山台中学校37名
知多中学校 24名

活動日：休日いずれか一日

活動時間：3時間

指導者の基本情報

兼職兼業の教職員
部活動指導員など
1,600円/時

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費90万円
参加費年額0円
（活動費は市が負担）
自己調達財源 7万5,088円

IV. 課題と今後の方針

今後は吹奏楽では、参加生徒の減少を考慮し地域バンドを設立し、地域に3～4程度の拠点を設け活動を行う予定である。そうすることで指導者の数も減らすことができ、持続可能な活動を行っていくことを想定している。地域バンド設立に向けて、各校の楽器保有数の調査を行い、余剰の楽器の配分を計画している。

令和5年度は部活動の枠を維持した地域移行を行ったが、令和6年度以降は学校枠を越えて近隣の学校の地域クラブ活動に参加できるようにする。合唱では、自校の生徒だけでは少ない人数となっているが、活動の人数も増え、活動の幅が広がることが予想される。

【課題】

吹奏楽や合唱ではコンクールなどで発表する際の演目を仕上げるのに長期間の練習時間が必要となるため、合同する際に事前からの調整が必要となってくる。

地域バンドを円滑に進めていくためには、楽器の維持費や運搬費など運営をどのように行っていくか現在検討中である。また過度の保護者負担にならないように配慮をする必要がある。